

2020年6月30日  
柿崎（英語科）作成

※内容を青文字で表示

1. 実施日時

2020年6月30日（火）14:00～15:00

ZOOMミーティング形式

2. 出席者（敬称略）

米倉、吉田（み）、若生、村戸、柿崎

3. 概要

（1）開会の言葉

（2）研究部長より

・研究部会を活性化させるためのきっかけづくりとして、会議を行う

・どんな意見でも述べてほしい

（3）資料2、3についての説明

（4）事前課題についての議論

①活動したいこと

・高校入試分析

・入試分析は、自分自身の勉強としてこれからも取り組み続けたい

・分析、振り返りを複数の先生と行うことで、今までの研究内容の蓄積に基づいた助言が得られる

・入試に関する時事問題の情報交換

・様々な授業進行ツール（ZOOM、パワーポイント）を、入試分析と関連付けて紹介する

・各教科において、その時節に見合った指導方法を他の先生方と共有していきたい

・自由な発想

・資料作成や発表の準備で、一人になってしまう嫌があるも、皆で協力して取り組みたい

・入試分析を、ハードルが高いものを感じられてしまう→専門外の科目でも気軽に参加できるように告知をしていきたい

・同じメンバーだけでなく、科目専門外のメンバーに出てもらうことで、新しい知見が得られる

・自塾の業務を優先させ、業務の間において研究部会の活動等をしてもらいたい

・国立高専の入試分析を行うことで、新たな発見がある

②求めること

・研究部会のあり方

・教育一般に関する研究が、本来のあり方であったにも関わらず、高校入試の分析に留まってしまっている

・上述のような自由な発想で取り組んでいく

・全体の勉強会

・各科目で協力しあって勉強することができる

・これからも塾で生き残るための術

・上述の授業進行ツールの利用を行った学習指導のあり方を、分析に取り入れるのも一手

・ツールはあくまでも手段であって、最終的には対面が重要である

#### 4. まとめ

##### ・研究部活動の目的

- ・会員塾に関わる教育内容の研究を行い、有益な情報を得られる場を提供する

##### ・本年度研究部の方針

- ・入試研究を継続する
- ・入試研究に加えて、授業法・教具・学習法等の指導する上でのヒントの共有の場も設定する

##### ・ミーティング実施方法

- ・各教科チーフが発案→部長と全チーフに対して内容提示→精査→承認→各部長から全体に発信する

##### ・活動する上での注意点

- ・自塾の業務を優先させ、負担がかかるようであればすぐに相談する
- ・ミーティングは告知文を含め、誰でも参加できるような雰囲気づくりを心掛ける
- ・新しい意見・試みを歓迎する雰囲気づくり

#### 5. 閉会の言葉

以上

【協議会】研究部会 科目チーフ会議 [資料 2]

—事前課題について—

2020年6月30日

柿崎（英語科）作成

科目（チーフ※敬称略）	活動したいこと	求めること
数学（村戸）	研究部の活動が、これまでの研究も踏襲しつつ、もし可能であれば教科限らず、それぞれの教科における、授業・指導・教室づくりなど、ただ入試問題を見ればわかるようなことではない、これからの時代を生き抜いていくための術を学ぶ場であつたらと思う。	左に同じ
社会（吉田み）	毎年の入試分析	情報共有(データ・教材・作成したプリント・教える方など)
部長（米倉）	これまでのものにとらわれず、自由な発想で。	指導教科だけではなく、5年10年先の塾業界を見据えて、それに繋がるような話し合いの場。
国語（吉田早）	県立高校入試問題分析、国立高専問題傾向勉強会(全科目)、おすすめ教材共有など	先ずはこの機会に、研究部の在り方を見直してみるべきではないでしょうか。元々はどんな目的で創部され、多くの会員が何を求めてきたのか。そこから今後の研究部の役目や方向性、各チーフや会員の先生の適性を確認し、研究部として価値あるものを作り、提供していくべきだと思います。
理科（若生）	高校入試研究(今までと同様、今年度の入試がどうであったか、今までと比較してどのようであったか、今後の対策等の話し合いは必要だと思う)、移行措置による語句や内容の変更点、その他高校入試から離れて小学校の英語授業についてやプログラミング授業・大学入学者選抜についての情報交換などがあってもいいのかもしれない	今までは各チーフが事前に準備をし、教科ごとに集まり打ち合わせをしてから発表という流れでしたが、発表という形をとると負担が多くなってしまっていたように思います。そこで教科ごとの打ち合わせを、はじめから全体での勉強会のような形にし、そこで出された意見や案を議事録として各チーフがまとめ提出する、という形でもいいのかなと思います。また、教科ごとの参加者のかたよりも気になります。
英語（柿崎）	分析は資料提示で終了、科目毎でなく研究部会全体として、入試に関する時事的な話題の疑問点解消	研究部会の方向性・範を示す、特定者の負担を軽減させる

## 1. 働きアリの法則

鈴木未紗「働きアリの法則から学ぶ～最強のチームの作り方～」Habi\*do 通信より（最終閲覧日：2020年6月29日）  
<https://habi-do.com/blog/team-worker-ants/>



## 2. 新しいことって？

日本クレアス税理士法人 経営メモ「新規事業という病 —新しいことのやりすぎは良くない!?」（vol.73）より  
（最終閲覧日：2020年6月29日）<https://j-creas.com/angle/4173/>

新規事業、やっちはいけない3つのパターン

### ①流行に手を出す

例えばシェアリングサービスやサブスクリプション（定額課金サービス）、フリー（無料）戦略、といったキーワードや流行に手を出すと競争も激しく、また戦略の本質を十分に意義付けることなく進んでしまう傾向がある

（例）「AOKI」のスーツのサブスク

→自社製品との不適合性とシステム構築やバックエンドの手間の煩雑さに気づき、わずか半年で撤退

### ②シナジー効果の誤解

「風が吹けば桶屋が儲かる」的に過大なシナジー効果を見込んだ企業も、新規事業に失敗した例として位置付けることができる

（例）「RIZAP」

→M&A をやり続ける必要がある、と考える成長路線はまさに「膨張」

### ③過去を否定しすぎる

（例）コカ・コーラ

→1985年にそれまでの「味」と「ロゴ」の変更も、消費者から苦情が殺到し、新製品の発売前に旧製品の買い占めが起こる事態発生

→新製品はニュー・コークとしてプラスアルファのラインナップの扱いで発売も、1年も持たずに発売中止

現状を打開するために新しいことをやろうとするが成果が上がらない

信頼されてきたブランドやサービスの「累積的優位性」を否定→歴史的な顧客離れを引き起こしてしまう可能性が高くなる

3. 山本五十六の言葉

未来ポケット「山本五十六の言葉は親や上司の心得として活用できます」（最終閲覧日：2020年6月29日）

<https://mirai33.com/1170.html>

